

私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

事業所名		ワークセンター夢の樹		第三者評価受審年度	平成30年度
項目	評価結果に基づく現状分析 (平成30年度)	改善計画 (平成30年度末時点)	実施状況 (平成30年度末時点)	実施状況 (平成30年度末時点)	
組織として経験の浅い職員の育成・強化を図り、利用者増などによる業務量増加に対応していくことが課題です。	育成計画は作成しているが、計画に基づいた丁寧な指導等がされていない。また、施設長から職員への関与が不十分で、育成経過の確認が行われていない。	施設長と経験のある職員のコミュニケーションを基に、職員の適正把握やこれに基づいた指導方法等について具体的に検討を行う。	施設長と経験のある職員間で経験の浅い職員への指導方法や適正な配置などについて検討し、経験のある職員から指導を行っている。少しずつ経験の浅い職員へ業務を任せているが、不備な点もあるため、その都度、業務実施の確認を行なっている。		
就労移行支援、1階グループ、2階グループのそれぞれで各グループに任せる業務を増やし、グループを育てていくことが期待されます。	就労移行支援、就労継続支援B型の1階、2階の各グループリーダーへミーティング記録やケース記録のチェックを行なうことやケース会議などに参加してもらい、業務の分担化を行っている。	就労移行支援の職員1名を管理職に向けた育成を行う。具体的な計画として施設長とともに労務管理や会計業務、行政の手続き書類作成など事業管理に必要な業務を一緒に行ない、年間の業務を把握する。	会計ソフトの入力、国保連請求、行政手続きなどの実務について実践の中で習得を行っている。また、経営会議への参加や理事会の傍聴を行い、経営知識の向上を図っている。		
職員の経験則をもとにした支援から誰もが同様の支援を提供できるよう業務の標準化が期待されます。	利用者の状況や各職員の支援の状況はミーティング等で共有されているものの、職員間での支援方針の統一が不十分であり、支援計画の内容、支援の実践、また記録の記載などに課題がある。	現状を踏まえた具体的な目標設定、形骸的な内容の修正など、支援計画の根本的な見直しを行う。日常生活と計画との関連性を意識し、ミーティングや記録を通し、職員間での情報共有により、支援方針や手法統一を図る。	計画内容の改善は図られたが、職員間の共有や計画への意識は、あまり改善が見られず、支援方針の統一に基づいた実践や記録は不十分である。支援業務の標準化には至っていない。		